

# 平成27年度第2回千葉市文化芸術振興会議議事録

市民局生活文化スポーツ部文化振興課

## 1 日 時

平成27年6月29日（月） 午前9時30分～11時30分

## 2 開催場所

千葉市議会 議会棟3階 第二委員会室

## 3 出席者

（委員）神野委員長、早川副委員長、椎原委員、関委員、高橋委員、大澤委員、竹下委員  
（事務局）生活文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興課長補佐、文化振興班主査、主任主事2名  
千葉市文化振興財団課長2名

## 4 議 題

- （1）千葉市文化芸術振興計画 進捗状況について  
（平成26年度実施状況、平成27年度実施計画）
- （2）次期千葉市文化芸術振興計画の骨子（案）について

## 5 議事の概要

- （1）千葉市文化芸術振興計画進捗状況について報告し意見交換を行った。
- （2）次期千葉市文化芸術振興計画の骨子（案）について意見交換を行い、決定した。

## 6 会議経過

### 【神野委員長】

皆様おはようございます。お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。今年は例年より会議の回数が多く、皆様には非常にお世話をかけておりますけれども、どうぞよろしく申し上げます。

早速、次第に従い議事を進行してまいりたいと思います。まず議題1の千葉市文化芸術振興計画の進捗状況についてです。現状の進捗について報告を頂きたいと思いますので、現計画の概要も含め、まず事務局から説明をお願いします。

### <事務局説明①>

### 【神野委員長】

平成26年度の実施状況及び平成27年度の実施計画について、文化振興課が所管しているいくつかの事業をご説明頂きました。今のご報告、あるいは説明のなかったところに関して、ご質問があればお願いしたいと思います。所管課が多岐に渡っていて直接文化振興課で関わっているものばかりではありませんので、十分な説明が出来ないこともあろうかとは思いますが、ご意見やご質問等お願いします。

では、私の方からよろしいですか。文化振興財団の新規事業で福祉関係と学校のものがありますけれど、学校の方はもう既に全て終わったということでしょうか。

### 【中嶋千葉市文化振興財団課長】

はい。3回、既に終わっております。

### 【神野委員長】

年度の早い時期に終わっている理由は。

### 【中嶋千葉市文化振興財団課長】

早めに計画をしていたということと、学校側の都合によるものです。各学校とも6月が空いていたのでこの時期に実施いたしました。

### 【神野委員長】

概ね好評であったということでしょうか。

### 【中嶋千葉市文化振興財団課長】

はい、おかげさまで。3校とももちろん芸術鑑賞会をやったことはあるんですが、予算はなく、今までは無料の県の音楽会や市の消防音楽隊などを活用していたそうです。大きな学校など、学校によっては20万円をかけて演劇と音楽を毎年隔年で実施している学校もある中で、今回は、このような芸術鑑賞会をしたことがない3校を選定いたしました。最初の2校につきましては、「音楽だけではつまらない」と校長先生から提案がありましたので、アーティストバンクちば登録者である幕張出身のマジシャンと

千葉出身のハープ奏者のコラボ企画を初めて実施しました。「ハープの音でろうそくを消してみよう」というマジックをやるなど、非常に盛り上がりました。千城台小学校は、全校生徒が39人という小さな学校なのですが、たまたまアーティストバンクちば登録者の中にこの学校出身の方がいらっしゃいまして、協力していただくことが出来ました。回覧板などで地域の方へも呼びかけを行い、生徒と約60人の近隣住民の方、100人ほどの方に楽しんでいただきました。大変好評でした。

【早川副委員長】

対象校の選定はどのように行ったのですか。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

本年度は本事業の最初の年度でありましたので、教育委員会からの生徒名簿に基づき、生徒数の少ないところを選定しました。

【早川副委員長】

生徒の少ないところ。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

はい。小さい学校でも「うちは結構です」という所もありました。小さいところをピックアップした中でこの3校がやりたいということでしたので選定しました。校長会で芸術鑑賞会のご案内はしていますので、学校を選ぶ手段は今後の課題かなと思っています。

【関委員】

アーティストはどうやって選定しているのですか。

【中嶋千葉市文化芸術振興財団課長】

アーティストは、学校からの要望に基づきうちでチョイスしています。ミュージシャンとマジシャンをドッキングするなどコラボ企画等を考えながら選定しています。

【高橋委員】

この事業について事前にマスコミとかに発信したんですか、定例記者会見など。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

発表はしていませんが、財団がまとめている報道資料には掲載しています。

【高橋委員】

一週間前ぐらいに報道機関に投げ込んだりするとか。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

私たちも、学校側に「新聞社など報道関係者を入れていいですか」と伺いましたが、教育委員会関係はそういった手続きが大変だそうで、私たちとしてはやりたかったんですが、校長先生の意向もあり今回は発表しないということになりました。今後は出来ればもっと情報発信をしていきたいなと思っております。

【高橋委員】

やはり、地域と子ども達の交流っていうのはマスコミにとっていい絵になりますよね。教育委員会のせいではないんですけども、他市は出来るんですけど、千葉市の場合ほとんど学校取材って出来ないんですよ。やはりお子さんの写真を載せるとか、逆に何でうちの子が載らないんだとか、そういったモンスターペアレンツ的な方の苦情について千葉市はかなりナーバスになっているなという印象があって、学校でこういった取り組みが行われているというのが全く一般に伝わりづらいというのは出来れば改善してほしいなと思います。

学校の事情もあると思うんですけど、いい事業をやっても事後報告になってしまうので。地域の方が参加できるということであればお知らせの記事も書けますし、事前にお知らせ願えばあとは新聞社と学校でどこまで報道していいのか調整しながら報道しますので、そういう努力はしてほしいとは思いますが。千葉市に限って言えば、学校取材がかなりしづらいというのは弊社だけでなく他社も感じていると思うので、こういうことを教育委員会にも伝えて頂ければと思います。

【早川副委員長】

何のために事業をやっているのかということですよ。文化振興なのか、子どもが親しむ会なのか、学校教育の一環なのか。目的をどこに置くかということは次の計画にも関係してきますよね。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

はい。これは学び育てるプロジェクトということで、学校教育という観点よりも財団が学校に身近な芸術を届けるということを目的として実施しています。

【早川副委員長】

そういう意味ですよ。報道したりチラシを配布したりして、父兄が沢山来れば成功ということではないですよ。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

はい。

【早川副委員長】

学校の児童の一人一人のプライバシーを守ることは大切ですから。報道関係者にとって不便だから何か検討してほしいというのは基本的に間違っていますよ。きれいな女の子が紙面に出たら襲われる可能性が高いですから。そこは学校経営として一番気を付けている所です。むしろ報道関係の方にご理解

解を頂きたい。

【高橋委員】

後姿を撮る手法もありますし。

【早川副委員長】

全部後ろ姿で撮影するし、何かに載せるときは父兄の了承を全部取っています。

【神野委員長】

その辺をルール化して、良いことはやっぱり出来るだけ広く皆さんに届くようにしたらいいんじゃないかというご提案ですね。

【高橋委員】

そうですね、写真を撮らない報道の仕方もありますので。

【神野委員長】

何にもしなければ何も起きないというところにプライバシーに関する議論を設定するのか。やはり学校でこういうことがあったというのは地域の人や学校の生徒にとっても誇りになるので、プライバシーを侵害しない形での報道の在り方について行政の方にもご検討をお願いしたいと思いますけれども。やっぱり何も無かったことになってしまうと非常にもったいないと思うので。

【布施文化振興課長】

市の中に報道担当のセクションがございますので、取材対応についてはそことよく相談しながら検討していこうと思います。出来ることもあれば出来ない場合もあるので、そこはご理解頂ければと思います。

【早川委員】

学校から出す資料では児童の顔を出すなんてことはほとんどしていないし、出す時は父兄の了解を取るんです。

【高橋委員】

校長先生は報道したいのに、教育委員会でシャットアウトされちゃうというケースもあります。

【布施文化振興課長】

現状では、事案ごとにご相談させていただいています。

【高橋委員】

はい。

【大澤委員】

自分の地域だけの話ですけれども、地域に対する学校の情報発信はPTAがやっていますので、学校で何が行われているかについて、学区の住民は回覧板などでよく知っています。学校という密室の中で子どもが育てられているというイメージは、地域に限っては無いですね。

【神野委員長】

そこに住んでいる人達以外にも、この学校でどういうことが行われているっていうのは知られるべきだろうということだとは思いますがね。

【大澤委員】

レベルがちょっと違うのかなと思うんですよ。子供の顔がうんぬんという話とはちょっと次元が違う。

【関委員】

絵として撮るならアーティストを撮ればいいじゃないですか。一番絵になると思いますけれど。

【高橋委員】

そうそう。

【神野委員長】

その辺りの議論がないまま一律で取材を断られるのは、逆に賢明では無いのではないかということですね。

他のことについて、何かご意見等ありましたらお願いします。

【椎原委員】

事業評価の指標について、量的な指標ばかり目につきます。質的な指標というのはなかなかとは思いますが、文化芸術については数で数えられないところがあるので、その辺についてどうお考えなのでしょうか？

あと、B評価の事業についてですが、次年度の予算が増えているものが多くみられて、Bだったらせいぜい横ばいという気もするのですが、その判断について事務局にお伺いしたいです。

【布施文化振興課長】

まずは評価についてですが、お手元の資料3に各施策項目の目標具体例が記載されています。例えば、(1)①の文化芸術イベントの充実・発展ですと、観客数・ボランティアの数、その下には新たな広報ツールの活用数などと記載があります。この具体例は、数字で把握できるものを中心に目標値を設定しようということ過去に作成されたのではと思います。それによって毎年、前年度の状況等を踏まえながら、各所管が目標として来館者数の増加や出店数増加などと目標設定していると思われます。

次に、次年度の予算と事業評価についてですが、千葉市の場合、経常的な予算についてはほとんど毎

年10%ほどのシーリング、削減が設定され、PDCAのように、どこを見直してどこを変えていくのかという観点で捉えていかななくてはならない状況があります。新規事業を生み出すというのは財政的になかなか厳しい状況ですので、今ある事業について財政と所管とでヒアリングしながら内容を考えています。

【神野委員長】

数的な、数、量の評価が非常に多くて、資料3の目標具体例もやっぱり数が多い。けれども、これは非常に難しいテーマではあるんですけども、文化芸術の評価というものはそういう量的な評価以外の指標を設定して評価を行う意味もあると椎原委員は言われています。これはなかなか決まったやり方というのはまだ確立されていないのですが、千葉市として現状ではあまり取組めていないとは思いますが、今後その取り組みに向けた研究をやり始めるということが望まれるかなという気もしております。

B評価だったのに予算が増えているものもあるというご指摘については今の事務局の説明だとちょっとよく分かりにくいんですけども、私が見たところによると、内容によってこのくらい費用がかかるというケースが多いのかな、という気がします。あとは、担当課のそれぞれの戦略というのがあるんでしょうかね。文化振興課所管の事業で予算が増えているものは何かありますか。

【布施文化振興課長】

継続事業については同額です。経年的に2年3年とやっていく事業については前年同額というのが多いです。

【神野委員長】

シーリングされている中で同額ということは、その分予算は増えているということでしょうか。

【布施文化振興課長】

いえ、シーリングは除いてです。例えば、印刷費等の事務経費を出来るだけ削減して、事業自体は残しておこうというのが内部的な実情としては多いです。

【大澤委員】

例えばこのC評価の事業について、Cだから来年はやりませんということではなくて、今後まだ継続されるんですよね。ちゃんと評価を上げる努力をしたうえで継続されるのでしょうか。

【布施文化振興課長】

そうですね。

【大澤委員】

天候が悪いとか他の行事と重なったとか、色々C評価の理由はあるんですけども。

【神野委員長】

例えば、文化振興課が所管しているものでいうと、ミュージアムウォークはC評価ですか。

【布施文化振興課長】

はい。ミュージアムウォークにつきましては、天候不良ということで、26年度の評価はCでした。あとは、やはり各施設、点と点がなかなか線にならないという微妙な部分があります。

【大澤委員】

来場者数での評価ですか。

【布施文化振興課長】

それだけではなくて来た人にも話を聞きました。

【大澤委員】

屋内のイベントもあるので、来場者数が少ない要因は天候不良だけじゃなく、事業が知られていないんじゃないでしょうか。それこそもっとマスコミを使うべきじゃないかと。

【布施文化振興課長】

PRもそうなんですけれども、まず何で来なかったのかを聞いたりして、中身的なものを次回少し見直してみるということで。

【大澤委員】

中身にも問題はあると。

【布施文化振興課長】

そうですね。各担当者が実際に来たお客さんと話をしたり、科学館・美術館等と相談しながらあまりリアクションが薄かったりするものについては次回工夫するというで。基本的には事業存続というベクトルでいきますので、中身を変えながら多くの方に来ていただく取り組みを進めていきたいと思えます。

【神野委員長】

確か、この事業は最初に取り組まれた時には参加者や職員の方に好評だったと聞いています。おそらく、その次のステップといいますか、レベルを上げていく中でまだ上手い方法が見つからないのかもしれないかもしれません。各館連携出来るような内容がちょうどあれば色々出来るんでしょうけど、全然違うものだとなかなか難しいだろうというのはあります。以前、千葉市美術館で天体や星などをテーマに常設展か何かをやったときに、科学館と連携していたことはあったと思うので。

【大澤委員】

構成も少し考えた方がいいと思います。



【布施文化振興課長】

はい。来場者に街を歩き回ってほしいという狙いはずっとありますので、こちらについてもまた何かご意見があればよろしくをお願いします。

【伊原文化振興課長補佐】

平成25年度から3年間はやってみようという事業展開だったので、平成28年度からどうしていくのかについてはまたこれから考えていくことにはなります。

【椎原委員】

5ページのNo.3、A評価で次年度予算が1500万円から1000万円と3分の2くらいになっている事業がありますが、かなり減っているのはどうしてなのでしょう。評価が予算額に反映されていないのではないかとということです。

【布施文化振興課長】

500万円の削減ですよ。事業の一部が分割されて違うものになったか、単純に削減されたかなのだとは思いますが。

【新井千葉市文化振興財団課長】

この事業については、太鼓の鼓童を呼ぶなど企画した平成26年度と比較して、平成27年度は企画のスケールが小さくなっているので、経費が抑えられている部分があります。

【神野委員長】

指定管理者の性格としては、この評価を踏まえて次年度の事業を計画するというわけにはいかないもので、なかなか事業評価が予算額に反映されにくいということですね。

【新井文化振興財団課長】

はい。事業の企画内容優先で予算を組んでいくこともございますので。

【丸島スポーツ文化生活部長】

事業評価の全体論になりますが、A評価だから予算を増やせるというように、評価結果を予算額に反映させるっていうのは現実的には難しい状況でございます。逆にC評価の場合、我々はどこに原因があって目標を達成出来なかったのかについて事業担当課に聞くことが出来ます。A評価の事業について予算をもっと増やしてくれとは言いきい面がありますが、C評価の事業については事業内容を見直すか予算を増やすか何らかの対応をしてくださいと言います。高い評価の事業についてというよりは、評価の低かったものに対して何らかアクションを起こすという評価結果の使い方にシフトしがちなわけですね。

【神野委員長】

長期的な計画の中でこの事業はこういった評価を得てきているのでというように指定管理の次期計画に反映されることはありうるけれども、短いスパンの中では難しいしそういった想定もしてない。ただし悪い評価に関しては早急に是正が求められるので、指摘しながら事業内容の修正をしていくということですね。

【丸島スポーツ文化生活部長】

はい。

【神野委員長】

その他、気になることはありますか。

【関委員】

新規事業で学び育てるプロジェクトとふれあいプロジェクトがあって、事業費がそれぞれ40万円、24万ですか。この金額だと相当やれることは少ないだろうという感覚がありまして、非常に限られた中でお金の掛からない出演者がやれるものをやるとなると、アーティストバンクちばの登録者から選ぶと言っても選択肢がだいぶ狭められてしまうなという印象があるんですけれども。色々な人たちが出演したりアーティストの種類を広げたりすることはこの予算だとちょっと難しいのかなと。とてもいい事業だと思うので。

【神野委員長】

ジャンルが限られてしまう。個人の資質としても非常に強く出てしまう予算立てではないかということですね。

【関委員】

はい。予算が少ないことに文句を言っているわけではなくて、実際そうじゃないかという話です。

【新井千葉市文化振興財団課長】

このふれあいプロジェクトと小学校ミュージックアクトの財源は全て企業の寄付で賄うという特殊性をもっています。今まで企業と提携をしたり賛助会員の会費を使った事業をなかなか手掛けられなかった部分があるので、最初のステップとしてまず財団職員が企業へ出向き企業主に賛同してもらい、企業と連携して事業をやろうということの第一弾として始めた事業です。もう一方で、アーティストバンクに登録されているアーティストが年々増えてきているので、その方たちを活用していきたいという思いもありました。クラシック部門、ポップス部門、それから民謡など5つのメニューを用意し、介護施設に希望のメニューを選んでいただいています。予算規模が少ないので今のところ非常に限られた中でやっておりますが、お年寄りにもすごく感動して頂いております非常に評判が良いので、さらに企業等の寄付、それから賛助会員の会費を増やしてスケールをアップしていきたいと考えております。

【大澤委員】

ここに書いてある予算額っていうのは市から出ているお金だけで、企業からの寄付はまた別にプラスされるのでしょうか。

【新井千葉市文化振興財団課長】

いえ、この額は全て財団の自主財源ですね。

【大澤委員】

この書き方だとそれが分からないんですが。

【早川副委員長】

企業からの賛助金は財団に入って、それを財団が支出するという仕組みになっているんですね。

【神野委員長】

その頑張りみたいなのがちょっと目に見えるといいですね。この書き方だと市の予算みたいに見えるので。

【大澤委員】

そのように見えます。

【早川副委員長】

全体として賛助会員は増えているんですよ。

【新井千葉市文化振興財団課長】

はい、おかげさまで。

【神野委員長】

これはちょっと備考の欄にでも。

【布施文化振興課長】

はい、書き方を変えるなどして。

【大澤委員】

その方が良くもしいない。

【丸島生活文化スポーツ部長】

事業予算には国からの補助金や協賛金などが含まれることがあるので表記が難しいんですが、検討はしてみます。

【神野委員長】

事業費には色々なパターンがあるでしょうけれども、財団が財源を企業から集めて独自の事業を立ち上げられたというのは初めてのことだろうと思うので、これは非常に大きいことだと思いますし。ニュースになったりはしたんでしょうか。

【新井千葉市文化振興財団課長】

特にはないです。

【布施文化振興課長】

事業概要の中で、賛助企業何社と表記するかたちで。

【神野委員長】

そこはちょっとこれから頑張って拡充していく可能性があるってことですね。

【布施文化振興課長】

はい。

【大澤委員】

14ページに「あでは」がありますよね。平成27年度は総事業費が増えているんですけども、「あでは」の内容はあんまり変わっていないと思うんです。ページ数も増えてないし内容も充実していないのに総事業費が増えているのはなぜでしょうか。さらにその下もやっぱり同じで、予算がちょっとだけ増えています、相談件数20件という実績に対して予算額が増えるというのはよく分からない。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

「あでは」の事業規模は変わっていないので、予算を増やしたということはありません。これは消費税等の増税に伴うものと今は推測しております。その下のアーツステーション、こちらについては今予算書がないので即答することが出来ません。調べてご回答します。

【神野委員長】

何か特段内容を変えているということはないんですね。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

はい、ありません。

【神野委員長】

「あでは」の方は、決算額に対する次年度の予算額ということなので理解できます。アーツステーションの40万円増額については説明をしていただければなと思いますね。

【大澤委員】

出来れば昔の「あでるは」に近づくように予算を増やしていただきたいなと思います。何年か前、かなり小さなものになった時にすごくびっくりした声がいっぱい挙がっていましたので。以前の「あでるは」には千葉で頑張っている新人さんや素晴らしい方を取材して記事にしたページもあったりして、千葉にこんな方がいてこんなに頑張っているんだというのが直接文章で伝わってくるすごく良い冊子だったので、出来れば予算を増やしていただきたいです。

【中嶋千葉市文化振興財団課長】

「あでるは」につきましてもかなり検討はしているんですが、なかなか厳しいところではございます。当時、市の事務事業評価で不要と判断された以降は全て財団の主財源で頑張っているものなので。他の自治体や財団等とも検討会議を開いているのですが、街の中の色々な情報については今インターネット等で情報収集が出来るので、美術館や財団の事業の紹介を冊子上で出来たらと話をしております。

【関委員】

手元にチラシがある、この千葉市芸術文化新人賞のことなんですけれども、ここにはなぜ歴代の受賞者を載せないんですか。受賞者が13回分いるわけですから、載せればいいのと思うんですが。

【神野委員長】

この賞自体の実績のアピールにもなるし、どういう人が受賞対象になるのかを見たりするには過去の受賞者が記載されていた方が手っ取り早いのではないかとということですね。これは特に理由があるのでしょうか。

【伊原文化振興課長補佐】

特に理由はございません、紙面の都合です。市のホームページには載せております。このリーフレットは予算も削られている中で業者に委託して制作しておりますので、本来だったらある程度毎年刷新した形にしていけばいいんでしょうけれどもこのデザインももう2、3年同じようなものという現状です。

【神野委員長】

どうですか、今後検討していただくと。

【布施文化振興課長】

はい。

【神野委員長】

さて、この件に関しては大丈夫でしょうか。それでは以上で議題1の方は終わらせていただきます。

それでは議題2の方に移りたいと思います。千葉市文化芸術振興計画の骨子案について継続して審議してきていますけれども、まず事務局から説明をお願い致します。

<事務局説明②>

【神野委員長】

前回の皆様のご意見を踏まえて修正した部分と、基本的には名詞で終わるような形に統一し言葉の整理をしたものと、大きくは二つの変更があるかと思います。その内容について再度確認をしていただきまして、ご意見やご質問等ございましたら発言をお願いいたします。

【早川副委員長】

この文化振興計画の中で、企業というのはどういう位置付けになっていましたか。あくまでもメセナ、支援活動だけが企業のやること、という位置付けですか。お金だけ出せばいいんだということなのか、自らもそういう文化活動をするということなのか。私の所属している所は年に何回かコンサートをやっていますし、幕張の某ホテルは定期的にピアノ演奏会などを無料でやっていますよね。そういう活動は文化振興計画の中では特段意識しなくていいのですか。

【布施文化振興課長】

そこは今回まだ議論をしていない部分ですが、民間さんが主導でやる事業につきましては、市側としてイニシアティブをどこまで取れるかという、後援をして千葉市も賛同して支援するというのであれば事業は把握できるかと思います。今後、計画書の文章や具体的な関連事業を入れていく中では、企業の活動促進みたいな文章表現になるのかなど。

【早川副委員長】

企業の場合はメセナ活動という意味で組み込んでいけばいいと、そういう考え方でいいんですね。

【布施文化振興課長】

はい、そうですね。後援事業については、先ほどのような年次報告書という形で把握していくか、そこまでしなくていいよという話になるのか、この計画を作った後にどう進行管理をしてどのような形で委員の皆さんに見て頂くかということは今後ご議論いただければと思います。

【神野委員長】

民間との連携についてはそれほど具体的には検証されてないので、今後研究していく中で一緒に何かをやるということもありうるだろうと。

【布施文化振興課長】

一緒に何かをやるということとなると共催に近い形になるかとは思いますが。

【早川副委員長】

例えば、コンサートのチラシに千葉市後援って入れるのと入れないのではやっぱり集客活動に相当差が出てくるんです。だから共催というのは非常に重要なんです。

【神野委員長】

後援ということも非常に大きいけれど、さらに踏み込んで共催までということも今後検討していくに値することかなど。他にはないでしょうか。

【早川副委員長】

「等」って言葉が頻繁に出て来ますが、これは何とかならないですか。

【布施文化振興課長】

役所言葉でして。

【早川副委員長】

それはよく分かっています。「等」と言えば何でも入るから。それはいいんだけど、この骨子は今後7年間千葉市文化のスローガンとなるわけなんです。そういう意味で、例えば最初の「あらゆる世代の市民が主体となる文化芸術活動の活性化を図るための循環をつくる」という言い方では市民は分かりづらいのでもっと短く簡潔に言い切れないかとも思います。

あとは、「充実」という言葉が8か所出てくるんですね、24項目のうち8つが「充実」。「充実」という言葉じゃない方がすっきりくるようなところもある気がするんです。そのようなこともご検討いただきたい。

それから重点目標の2番目。これは「次代を担う子どもや若者が文化芸術に親しみ、その子どもや若者が～」とくどいようだけどまた子ども若者って入れた方が読んだ人は分かると思います。新聞社の方も委員としていらっしゃるから、そういう方に色々意見を聞いてみるとより良くなるんじゃないかと思います。これは文章表現の仕方によって受け止め方が違いますから。

【布施文化振興課長】

はい。

【神野委員長】

「等」「充実」とぼやかすことでやり易さというか保険をかけているところもあるんでしょうけれども、明言できるところは当然…

【早川副委員長】

はっきりしちゃった方がいい。

【神野委員長】

これはちょっと書けないねというところもあるでしょうから、その辺は精査をした方がよろしいかと。

【布施文化振興課長】

はい。

【早川副委員長】

一番下の「千葉市ゆかりのアーティスト等」、これは「等」は取って「アーティスト」でいいですね。そういう風に見直していただきたいということです。分かりやすい方がいいじゃないですか。

【布施文化振興課長】

確かに「充実」が8項目はちょっと多いかもしれません。

【関】

「充実」多いですね。

【早川副委員長】

ピタッとはまれば多くても構わないとは思いますが。

【神野委員長】

何かプラス方向でステップアップさせたいという思いはある中で、具体的なことがこの段階ではまだ絞りきれないということなんでしょうけれども。

【布施文化振興課長】

今後、これをもとに項目ごとの説明書きをしていくことになりますので、その時に「充実」より「促進」・「推進」がいいなどご意見がある場合には置き換えをさせていただければと。項目にぶら下がる文章を見ながらまた見出しは変えさせていただければと思います。上の重点目標につきましては、確かに文章が長いと訴えかけが弱くなってしまいう効果もありますので、端的な言葉で集約出来そうであればまた集約させていただいて響くような言葉にしたいと思います。

【神野委員長】

ちょっと補足です。重点目標の（１）（２）については、子どもと若者ばかりを対象にして高齢世代を視野に入れてないという受け取られ方もするというご指摘もあったので、あらゆる世代が対象であるということは重要視していますけれども、その中でも特に次世代への関わりを大事にしていくという風なニュアンスで整理されたという風に伺っています。

【椎原委員】

用語も出来れば文化芸術の振興に関する基本的な方針（第４次基本方針）に合わせた方がいいのかなと感じています。国の方針には雇用の創出についての記載が明記されています。

【神野委員長】

文化芸術の捉え方が国の方も随分と変化をしてきている中で、今までであれば入らなかった雇用の創出が国の方針の中にある。世界的に見るとそういう傾向は強まっていて、そこに国も可能性を見出している中で、千葉市はそれをどこまで視野に入れるのか、というご質問ですね。



【椎原委員】

最後の重点プロジェクト、これもどうなのか？

【神野委員長】

そこについてちょっと補足をしてほしいということですね。

【布施文化振興課長】

この骨子はワンペーパーでコンパクトに説明するというのが主旨でございます。今後、現計画と同じように計画書を冊子にしていけますが、その中にはこの基本施策の各項目について説明が入ります。また、この骨子案をもとに全所管課へ文化芸術に関連する事業について照会し、計画の各項目に該当する事業としてぶら下がったり、事業としてまだ決まっていないようであれば文章表現としてこんなことをやってみたいという形で文書の中に盛り込むことになろうかと思えます。それらを作成していくにあたっては、一部業務を今後コンサルに委託し、業者と一緒に計画書の原案・(案)作成に向けて汗をかいていきます。冊子の中では、文化庁・文科省などの動向や今の文化芸術をめぐる環境、東京オリンピックに関すること、また、国は何を目指し地方はどのように文化芸術に取り組んでいくべきなのかということを書き、あるいは国の動向のような形で入れたいと思っております。千葉市にとって東京オリンピックに向けた文化芸術の発信強化というのはどんなものがあり得るかということについても、今後コンサルと詰めていきたいと思っております。委託先については、来月下旬には決まる予定ですので、今後、コンサルと一緒に作業を進め、次回の会議では計画書に近い形のを皆様にご提示させていただきますので、文書表現も含めまた再度、皆様にご意見を賜りながら、素案から原案へとステップアップしていきたいと思っております。

【神野委員長】

国の施策等との関わりについて、今後これは千葉市独自の視点として設けてコンサルと一緒に作業を進める中で対応関係を構築していき、加えてオリンピックパラリンピックに関してもその中で検討を始めていくということになるのでしょうか。おそらく委員の皆様が気になるのは、この振興会議でそれについての意見を聞いてもらうタイミングがどこにあるのかということだと思っております。

【布施文化振興課長】

例えば、若者文化と言われている部分につきましてなかなか掴みどころがなく十人十色な解釈があったりしますので、国が若者文化について今実践していることなど有識者調査をコンサルにお願いする予定です。コンサルと作成したたたき台については、次回の会議で皆様に揉んでいただき、その後、修文などさせていただいたものについて11月の会議でご意見を頂戴しながら12月の計画案を作成していきます。それを1月にパブリックコメントにかけ、最終的には3月に決定という流れでやらせていただきますので、具体的な文言表現やこんな事業をやった方がいいんじゃないというお話は、まずは10月の第3回の時に皆様から頂きたいと思っております。

【竹下委員】

重点目標（２）子ども若者についてですが、基本施策５の中でもう少し強調した方が、メリハリが出てくるのではないかと思います。子ども若者を一生懸命大事にしていますよというわりには、どうも沈殿している感じを受けます。例えば、学校等における文化芸術活動の充実というのはここに出てくるんですけども、保育所・幼稚園など、もう少し後に千葉文化を支えてくれる人たちの層についても項目出しするなど、もう少し何かしらアプローチの仕方があるのではないかと思います。学校だけに絞る必要はないのではないかと。

若者については基本施策５の千葉の魅力というところに出てきますが、むしろ芸術とか文化に親しむ人たちを層としてもう少し広げていくという点で、基本施策１に移した方がよろしいのではないかと考えて見ました。子どもと若者というのを強調するのであれば、この層の人たちの扱いについてきちんと議論をした上で、どういう表現でどこにはめ込むのかということや、子ども若者のどこに注目するのかという議論はもう少し必要かなと感じました。

【布施文化振興課長】

まず、基本施策１（２）学校等における「等」なのですが、先ほどありましたとおり、この「等」には保育所・幼稚園も含まれるというのが私共のイメージです。ここには中学校、小学校や保育園などが含まれ、基本施策４の大学等との連携には高校や専門学校が含まれるというイメージです。

【竹下委員】

分かりました。

【布施文化振興課長】

若者文化等の発掘・活用の若者文化につきましては、ニコニコ動画、アニメ、コスプレなど色々な新しい文化を想定しています。重点目標の子ども若者はそれとはちょっと切り口が違いまして、既存団体や既存の活動に対しても子どもとか若者たちの参加を促したり子ども若者がその活動を見に行ったりといったことが大事なのかなという思いがありました。全部の文化施策に対してその着眼点が必要なのかなと。それぞれの事業において、今までよりも子どもや若者が来るようになったという評価が出来るのか、公民館の活動に近所の大人の方だけではなく子どもたちや大学生が来るようになるなど、全部の施策に対してそういう開かれた関係性を持っていきたいということです。子ども若者を取り入れて各事業が活性化していくのを評価として見てみたいと思っております。このように、基本施策５の若者と重点目標の若者はちょっと意味合いが違っております。

【神野委員長】

特定の若者文化に焦点を当てて千葉市の魅力にしてくという話と、あらゆる施策の実施において子ども若者を意識する、重点的に考えていく、そういう理解でいいですか。

【布施文化振興課長】

はい。

【早川副委員長】

フリースクールなどが竹下さんのおっしゃった考え方になるんでしょうかね。

【竹下委員】

違うかな。

【神野委員長】

フリースクールは、いわゆる不登校の子供たちが学校以外の所でも卒業できるということを文科省が認めているということですが、多分、竹下さんのご発言は、保育園・幼稚園など義務教育課程外にも子どもたちが関われる場所は色々あるので、そこも視野に入るべきではないかというご発言だったかと思います。

【大澤委員】

先ほど椎原委員がおっしゃっていた国の答申にある仕事の創生というのは芸術家のですか。

【椎原委員】

社会関係資本を含めた、芸術を生み出すための様々なものです。

【大澤委員】

基本的に芸術文化というものは、市民が自ら楽しむものと仕事として芸術家が生み出すものときれいに線が引かれると私は思っています。その部分が明確に分かれた上で、こういう案があってほしいなというのがありまして。この基本施策2（2）芸術家の発掘と育成というのはまさにその芸術家に対するところだと思っているんですけども、ここの②にある新進芸術家とは何ですか。どういう意味なんでしょうか。

【神野委員長】

ここに書いてありますよね、将来の活躍が期待されるっていう。

【大澤委員】

やっぱりこれからの人材っていうことですよ。

【神野委員長】

そうですね、まだ有名になっていないような。

【大澤委員】

そうですね。私、千葉の素晴らしい芸術家、千葉でプロになられた方がみんな千葉を離れてしまうというのが非常にもったいないと思っているんです。その理由は千葉に仕事がないからだとやはり皆さんおっしゃるんですが、それはすごく大きいなといつも感じています。そのようなことについて、この中で取り上げていただくことが出来ないのかなと。新人、新進でもなく、もう素晴らしいレベルまで達

した方が仕事を創生するような場の支援をここで出していくことは出来ないのかなど。

【神野委員長】

プロとプロじゃない人を明確に線引きするということはありません。プロフェッショナルというのは何を以てプロフェッショナルとするのかは、自活が出来るかどうか、あるいはその人の技術でも測れません。市民が楽しむものとプロのものという線引きは出来ない。要は、そういう人たちが生活出来る、出来ないというのは単純に論じられないと思うんですね。日本人がそういうものをものすごく大事にして、例えば市が給料を全部払うオーケストラが欲しいという市民が沢山いたらそれは実現できるわけですが、今それが実現出来ていない状態ですよ。クラシック音楽をやる人を多く輩出し、その人たちがお金をもらうような状況や環境にないという今現実に直面している問題をどういう風に変えるのかという中で、基本的に文化施策というのはそこに給料を払うということだけではないので、それをここできちっとやりましょうということですよ。

【大澤委員】

違います。行政が文化芸術に対して何かしようとする、やっぱり多くの市民に広く行き渡るようにというのはあると思います。私は、住民が自分の趣味で楽しむことに対しては千葉市はすごく手厚いと思っているんですね。住民が自分の趣味で歌の合唱団に入っていたりすることとお金が云々というのは全然次元が違う話で、それで生計が立てられるかどうかは線引きじゃないんです。市民が自分で趣味としてやっていることとそうではないことという意味です。行政がお金を払ってオーケストラを雇ってという支援ではなくて、例えばホールを借りる時に減免をすとか色々あると思うんですよ。この部分が充実している地域なんだよということを芸術家の方に発信できる項目が何か一個あると、演奏家の方たちも千葉にもうちょっと足を向けてくださったりするのかなということですよ。結局、それは市民に享受されるものですから。やはり良いもの、素晴らしいものを聞くと心が充実しますし、そういったものを受けられる地域であるということが最終的に文化度が高いということに繋がっていくと私は感じています。出来ればその部分まで一歩足を踏み込んで、7年後の目標としてそういうものが一つ小さくあってくれたら嬉しいなという思いです。

【椎原委員】

それは基本施策3に含まれるのではないですか、団体も個人もありますので。確かに「新進」を付けるべきかというところがあります。先ほどの雇用拡大の雇用というのは、あらゆるものがあります。文化芸術というのはお金儲けのためにあるわけではないので、NPO団体職員の雇用などによって社会関係資本を充実させていくということです。市としては公共財としての文化芸術ということ念頭に置きながらやっていく必要があると思うんですね。

それと、骨子にはアートマネジメント人材等の育成とありますが、これを本当に今までやってきたのでしょうか？それについては、文化庁も大学を活用する事業を立ち上げ、全国の大学が手を挙げていますが、なかなか難しいところがあります。そのようなこともあるので、ここに挙げるからにはリアリティを持って考えていただく必要があると思いました。

また、千葉らしさをどこに出すか、これはやはり重要だと思います。基本施策5でそれを出すという

ことですので、若者文化をここで出すのであればそれなりの姿勢を全面に出して戦略的にやるということもあるかもしれません。

【早川副委員長】

大澤委員のおっしゃっていることは、千葉市美術館が高校生を無料にしているように、例えば千葉市在住のバレエ団が美浜文化ホールを利用しようとする際には格別の利用料になる、というようなことを基本計画ではなく個別の中で考えてもらいたいという意味だと思っただけでも。

【大澤委員】

はい。

【早川副委員長】

そういうことが千葉市の文化団体の支援になるのかどうかということを検討する価値はあると思います。何か意義があって美術館で高校生を無料にしているんですから、それと同じようなことを検討してみてもいいと思います。

【丸島生活文化スポーツ課長】

基本施策2(2)②新進芸術家の「新進」を付けるか外すかという議論はあると思います。これが外れれば、全ての芸術家に対して支援するということになりますが、本当にそこまでやるのか、ということです。施設を減免するということは市が経費を負担するということです。市としてそこにお金をかけることになります。そういうことをするべきなのかという議論は我々もしなくてははいけません。

一方、新進芸術家というのはまだこれからという方ですので、行政としてそこにお金をかけることはしやすいです。もう一流になった方に対しては、そこに行政がお金をかけることがどうなのかという議論があるんです。大澤委員がおっしゃるように、沢山の芸術家を千葉市に招くことを市の施策とし、そこにお金をかけるべきなのではないかというご意見であれば、そこは議論しなくてはならないと思っています。

アートマネジメントについては、確かにマネジメントする人を育てることは非常に難しいとは思っておりますが、これは今千葉市に決定的に欠けている部分だと思っているので骨子に入れていきます。確かに、具体的に何か施策が打てるのかという非常に難しい面もあると思いますので、今後検討していきたいと思っています。

また、基本施策5(1)②新たな若者文化は幕張で行われているコミケやニコ超をイメージしていますが、それを果たして千葉市のものとしていいのかということについてはまた別議論があると思います。ここではそれらを含めた新しい若者文化ということで、広く全ての若者に対する文化ということとはちょっと違ったものを実現したいと思っています。それとは別で、計画全般に係るような形で、子ども若者という概念を入れていきたいということがありますが、それでは若者について特出しが少ないから基本施策1に若者を追加するという考えもあります。とりあえず、概ねこの骨子で良ければとりあえずこれで決めさせていただいて、この辺の議論はまた次回再度詰めさせていただければと思います。

【大澤委員】

芸術家への支援という言葉ではなくてもいいような気はするんですが、どういう言葉にしていいいのか今は頭に今浮かびません。

【丸島生活文化スポーツ部長】

この骨子に載せる以上は、それをやりますという市の姿勢を示すことになります。

【大澤委員】

目標、そういった形をつくるっていうのを示していくのもありだと思うのですが。

【丸島生活文化スポーツ部長】

表現の仕方ですね。

【大澤委員】

そうです。

【早川副委員長】

新進芸術家の「新進」は取らない方がいいというのが私の意見です。

【大澤委員】

私も取らない方がいいと思います。

【椎原委員】

コンサル業者を入れてやるのであれば、アーツカウンシルが計画の中にあっただ方がいいのではないかという提案を業者はすると思います。公共の政策なので、やはり行政から独立したところが何らか適正に支援する方法というのは、例え予算規模が小さくても求められると思います。

【丸島生活文化スポーツ部長】

今の千葉市の状況では、なかなか具体的なアーツカウンシルのイメージが湧いてこないというのが実態です。まず、文化振興財団をどうするかということがありますし、アーツカウンシルのような第三者的な組織をどう活用していくのかというのが今は見えておりません。ただ、様々な人たちの団体や芸術家を支援することは今の形では難しいと思っていますし、マネジメントをする人がなかなか育たないということもありますので。マネジメントする人達を集めてアーツカウンシルができればいいとは思いますが、文化振興財団の役割と市の施策等が今まだ見えていない状況で、動き出す時期ではないかなとは思っております。

【神野委員長】

推進体制をどのように整備していくのか。美術館を所管している教育振興財団もありますしね。文化振興課からするとこちらの財団には直接言いやすいけれども教育振興財団に対してはなかなか微妙なところもありますよね。そこが別財団であるということも含め、その辺も整備をしていかないといけないという中で、千葉市としてどのように強力に文化の施策を推進していくのかというテーマもありますから。この中にそれを書く書かないについては今のこの状況では難しいような気がしますけれども、この後、計画を冊子にする段階では、おそらくそれをどのように具体的に推進していくのかということは盛り込まざるを得ないので、その辺についての検討というのはやはり課題だと思います。

【関委員】

基本目標の世界性、東京オリンピックパラリンピック競技大会を契機に千葉文化を発信する。基本目標に何でこれが入ったのかちょっと記憶にないのですが、これって千葉らしさなのかなと疑問に思ってしまうんですよ。後ろでこういう記載をもってくる分には全然問題はないと思いますけど。

【神野委員長】

確かに。世界性ということを千葉市として打ち出している中でこのタイミングで書けることを入れ込んだのかなと想像はするんですが、こちらについては事務局から何かありますか。

【丸島生活文化スポーツ部長】

マスタープランの基本目標が個性、世界性、市民主体となっており、本計画はこのマスタープランに沿ったものですので、世界性ということについて今回の計画ではこの位置づけにすることでこのように入れました。

【関委員】

何でわざわざ東京って文字を入れるのかとは思ったりします。

【椎原委員】

要は、国際交流しようということですよ。

【丸島生活文化スポーツ部長】

はい。千葉市も東京オリンピックの会場になりますので、これを機会として千葉というものを世界に発信していきたいとは思っています。

【椎原委員】

オリンピックを起爆剤として、国際交流をさらに進めていくということですよ。

【丸島生活文化スポーツ部長】

そうですね。沢山のお客さんに千葉市に来ていただいて、例えばその方たちに千葉市美術館にも来て

もらうという意味です。

【神野委員長】

この計画の最終年はオリンピックが終わって何年後になりますか。

【布施文化振興課長】

2年です。

【神野委員長】

そうすると、終わってからもここにオリンピックと残っているとちょっと厳しいかな。例えば、世界的・国際的なイベントとの関わりで千葉の文化を発信し国際的な交流を図るというような文言の方がふさわしいかもしれないですね。もしかしてもっとすごいサミットなどが今後千葉市であるかもしれないですし。

【早川委員】

オリンピックとの関係については、千葉市の文化の計画にどう関係するのかって疑問を最初に提示して、その後、それを契機に千葉の文化を世界に発信するという基本施策の下の記載になったので、それなら大賛成ですと言った経緯がありますよね。

【大澤委員】

下にあるから上では無しにしてもいいのでは。

【神野委員長】

そうですね。オリンピックが終わってから2年間も我々はオリンピックのレガシーを重視してやっていくということになってしまう。

【早川副委員長】

世界性というのは取れないわけだから、文章を直せばどうですか。

【布施文化振興課長】

はい。

【神野委員長】

国際的なイベントという言い方をすればどうでしょう。

【竹下委員】

これからの5年で何かオリンピック関連のものを作ったり発信したりしていくんだろうとは思いますが、しかし、オリンピックという一発的なイベントと行政である市が何か継続的な施策を打っていくという



のは全く繋がらず、その違和感が問題のような気がします。例えば、「競技大会を」ではなく「競技大会も」として、それも契機にして千葉文化を発信すると書き換えてみるのもいいと思います。下の重点プロジェクトとして掲げるのは賛成ですが、基本目標の世界性にオリンピックと入れるかについては検討課題かなと思います。確かに、これが千葉市の世界性ですかと貧しさを指摘されざるを得ないような感覚はありますね。そういうことも契機としてもっと千葉らしさを国内外に訴えていくために、基本施策5や4で千葉の魅力とか千葉文化を強調しているという点ではもっとこの文章は練ってもらっていいなと思いますね。

【大澤委員】

私、国際交流って言葉、好きです。

【神野委員長】

施策の発信もありますけれども交流もありますもんね。

【椎原委員】

外国人観光客が沢山来て、それによって産業が少し伸びてくるといいですね。

【神野委員長】

とりあえず骨子なので「等」「充実」とぼやかしている部分もありますけれども、それに肉づけし内容をさらに細かく分けたものを次回皆様にお見せしご意見をいただくことになると思います。

先ほどのいくつか提案等ありました件については、こちらの方で対応するという形でお任せいただきまして、骨子案は今回のご提案なども踏まえて確定としたいと思います。皆様お疲れ様でした。